

## 背景 & 課題

▼この事業の主題（海のどんな課題を解決するのか、学ぶのかといった、テーマ設定と課題・学びポイントの整理）（〇〇を〇〇するプロジェクト）。

- ・2020年に開発した冷凍食品の実績を活かし、シロエビくりむコロッケをより広く地域に根ざした文化とするための6次産業化を促す。
- ・地域の人々ともに地元産業を形成していく取り組みとして、地域の人、サービス、モノを緩やかに連携させ、シロエビの産地射水をめぐるイベントを行う。
- ・地元への人の流れとお金の流れを生みだし、さらに、地場産業を核としたプラットフォームをつくり、次世代へ地域をつないでいく。

## 2022年度実施内容のまとめ

### 実施①



シロエビくりむコロッケの販売数を増やし、認知度を上げることで、「海を大切にす気持ち」を伝える

### 実施②



次世代層に向けたシロエビ漁体験イベントの実施



### 実施③



シロエビくりむコロッケをきっかけに、地域との連携を深めていく、仕組み作りを行なう

## 量的成果（事業の拡がり）

- ① 「射水シロエビくりむコロッケ」発売から本年度9月時点で約4万個販売。スーパー40店、飲食店20店、販売店5店、ふるさと納税2店で販売。
- ② 地元の親子がシロエビを通して、富山湾の課題などを深く学ぶ。シロエビ漁体験、漁についての解説・ビデオ視聴、シロエビ剥き体験を実施。
- ③ キッチンカー販売やマルシェにて、商品PRを兼ねた店頭販売を4回実施。商品のニーズを確認することができた。

## 質的成果（次なる展開への芽）

- ① 自発的にコロッケの販売に取り組む飲食店が出現。（店舗によっては1日に100食販売する店舗も）
- ② イベントで販売することで、多くの地域でPRを行い、メッセージを幅広い方に伝えることができた
- ③ 事業に関わるキーマンとの協業や巻き込みを行い、2023年度の自走化を目指す。

## 2022年度課題点

- ①「海を大切にす気持ち」をメッセージとして生活者に伝えるも、アクションにつながっているかを追い切れていない
- ②スーパーに導入すべくも、シロエビの原価が高く商品供給に難航

## 2023年度改善点

- ①SNS等を活用し、アクションに関する取り込みを行う
- ②時価での販売や、シロエビの豊漁時に製造するなど、固定概念にとらわれない仕組みを作る



プロジェクトの目的を伝えるため、明確でシンプルなメッセージを、リーフレットや絵本にて馴染みやすく広める



北陸最大手のスーパー「アルピス」40店舗にてコロッケを販売。海のメッセージも店頭で展開。



射水シロエビ・くりむ・コロッケを、飲食店20店舗、販売店5店舗で連携。



コロッケの認知度アップを目的に、イベントに積極的に参加（富山2回、大阪1回、東京1回）



ミシュランシェフとコラボレーションして、射水シロエビくりむコロッケの商品をリニューアルを実施



町巡り・食巡り・海巡り企画と「富山湾ワンウェイサイクリング」を、観光協会、旅行会社、と協業、テスト実施予定。

## シロエビコロッケ販売 アルビス



アルビスは1日、射水市と北日本新聞社などで行く「海と食の地域モデルin射水」実行委員会が企画した「射水シロエビ・くりむ・コロッケ」の販売を県内など計38店舗で始めた。30日まで。富山湾の恵みに親しんでもらおうと、同実行委が日本財

団の「海と日本プロジェクト」の一環で2020年に開発し、道の駅カモンパーク新湊などで販売している商品。アルビスがプロジェクトに賛同し、県内全店舗と愛知、岐阜両県の2店舗で提供することにした。同市本開発の大島店では1日10～30パックを用意。資源管理強化に向けた漁業者の取り組みを紹介するポップなどを掲示している。



アルビス大島店などで販売が始まった「射水シロエビ・くりむ・コロッケ」

「射水シロエビ・マルシェ」が18日、射水市本町のクロスベイ新湊で開かれ、射水シロエビを使った弁当などが販売された。家族連れでにぎわった。写真。



おいしいね シロエビ弁当 クロスベイ新湊



日本財団「海と日本プロジェクト」の一環「海の日」に合わせて、射水市と北日本新聞社などで行く「海と食の地域モデルin射水」実行委員会が企画した「射水シロエビ・くりむ・コロッケ」を添えたオムライ



報告 尾川 知輝

シロエビを使った「くりむコロッケ」水産資源を未来につなぐ



シロエビの食感がしっかりあって 非常においしい商品に仕上がっている

## 北日本新聞 本誌掲載

4月2日	射水シロエビ・くりむ・コロッケ発売
7月19日	射水シロエビ・マルシェ開催
7月31日	親子シロエビ漁見学開催
10月12日	シロエビ食感味わって、アルビス改良コロッケ販売
富山テレビ放送	
4月4日	シロエビ使ったあの商品水産資源を未来につなぐ
10月11日	射水シロエビくりむコロッケアルビスで販売

プロジェクトの要所でメディア誘致を実施、話題化。プロジェクト全体を盛り上げた。

## 海の大切さ学んだよ 親子シロエビ漁見学



「射水」親子シロエビ漁見学が20日、射水市の新湊漁港で行われ、市内の親子組が入艇して、シロエビの生態や資源を保護する漁師の仕組みについて説明を受け、取れたシロエビを試食した。富山県中部小学校3年の常川雄君は「海の生き物を守るため自分ができることをしたい」、水尻市豊洲小学校4年の野毛斗君は「清掃活動に参加して海をきれいしたい」と話した。

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で、射水市と北日本新聞社などで行く「海と食の地域モデルin射水」実行委員会が開催した。新湊漁港所属のシロエビ漁師組合の船に乗り、漁師の指導を受け、シロエビの生態や資源を保護する漁師の仕組みについて説明を受け、取れたシロエビを試食した。富山県中部小学校3年の常川雄君は「海の生き物を守るため自分ができることをしたい」、水尻市豊洲小学校4年の野毛斗君は「清掃活動に参加して海をきれいしたい」と話した。

紙面上で情報を発信を行った。また、飲食店でものぼり旗やスタンドPOPを設置し、メディアとリアル接点で連携をとりながら、射水シロエビくりむコロッケに関連する情報発信を実施することで、海洋問題に関する意識の啓発、及びシロエビの盛り上げに貢献した。